

弥生 愛南文芸

みなみうわ俳句会

旧友の呼び名遙けし木の実独楽
三ヶ日静かしずかに申の年
雪しずか立ち木鳴く音永平寺
父母遙か早く行きたし日向ぼこ
外つ国の人も交じれる七日粥
初詣鐘一つ打つ心して
寒柝かんたたくに続く波音風の音
新年会いたわれ知るわが齢よわい

小島 泰子
竹村 勝利
濱 初榮
若林八重子
木村 智子
田口ひさ子
中川千代子
宮下 峰月

園児らのおしやべり梅の一二輪
晩学の夢をつなぎし初句会
科学被きぎて宇宙へ行つた仏の座
寒暁や五臟六腑のひとりごと
三日はや始発列車に手を振りて
早春の野禽やきんが歩く海鼠なまこ板
大河より生るる光や梅二月

西海俳句会

カセットに好きな歌かけ日向ぼこ
日めくりやあと一日で猿年に
八十路越え寒や二人の姉の世話
絵手紙の梅ふくらむや友元気
枯葉飛ぶ崎鋭き鳥の声

利根早智江
吉田 笑代
浜木チズエ
吉田 朝子
吉田 弘定

新くさの葉短歌会(はこべ)

大病もせず生きて来し九十三年見習いたいと娘よりの電話
屋近く学校は今日半日か笑い声ひびき駆け去る気配す
「おい」と呼び後の言葉はなけれどもお茶を運べばまた本を読む
夫の忌を終へてはらから見送りぬ石路いしぢの絮毛わたげの飛ぶ夕まぐれ

濱椰子

一冊の本読み切つて春惜しむ
想ひ出の残る文机ふづくえ落椿おちばき
なみなみと寒九かんくの水を汲みにけり
指先のかすかな温み春の土
山の辺の光集めて梅白し
四阿を離れぬ花と遊びけり

山本 金子
尾崎 松恵
加洲勢津子
濱野 康子

市川コマエ
長田ハル子
西崎 文恵
前田 充

はじめまして。赤ちゃん。

1月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

1月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。

